

目的

「読み手を意識した説明文」は、
本当にわかりやすいのだろうか？

- **読み手意識尺度**の検証
(Audience Awareness尺度)
- **読み手を意識した作文指導**の
具体的なポイントや強調点を探る

[読み手意識尺度(岸・辻・靱山, 2014)]

書き手が読み手を意識して、
理解しやすい文章や内容を選び、
適切な説明を行う意識と行動。

(4因子×各4項目、4件法)

「説明意識因子 ($\alpha=.74$)」

- ・文章や説明の「わかりやすさ・わかりにくさ」が気になる
- ・文章を読んで「わかりやすい・わかりにくい」と感じることもある
- ・読み手に合わせて、文章表現(言葉づかい)などを変えた方がよいと思う
- ・情報の受け手がどのような反応をするかに配慮することを心がけている

「書き手意識因子 ($\alpha=.78$)」

- ・文章の読み手がどんな人物なのか、考えて文章を作成している
- ・文章を作成するとき、読み手の視点に立って読み返している
- ・読み手に合わせて、書く内容の細かさを変えている
- ・読み手の興味や関心を引くような文章を心がけている

「メタ理解因子 ($\alpha=.72$)」

- ・説明の途中で、どこまで理解できたか、質問はないかを確認している
- ・説明の途中で、どこまで理解できたか、質問はないかを確認した方がよいと思う
- ・わかりやすいと思った説明があれば、それを自分の説明の参考にしている
- ・説明の際、出来るだけ工夫するよう心がけている

「工夫実践因子 ($\alpha=.71$)」

- ・日ごろから、文章や説明のわかりやすさを評価している
- ・わかりにくい文章を読むとき、自分なりの言葉や表現に置き換えて読むようにしている
- ・説明の際、できるだけ工夫した伝え方をしている
- ・説明の際、聞き手の興味や関心を引くように話している

(疑問1)

読み手意識尺度が高い人の
説明文は、わかりやすいのか？

(疑問2)

既有知識量の多い・少ない条件と、
読み手意識尺度の高低によって、
説明文の評価は異なるのか？

方法

STEP1 AA尺度測定 & 説明文作成

大学生29名に、AA尺度調査を実施。
同時に、説明文を作成させた。
(最寄り駅から大学まで、徒歩20分程度)

STEP2 評定対象(案内文)選定

調査者と大学院生2名の協議を行い、
AA尺度の高・中・低ごとに2つずつ、
評定対象となる道案内文を選定した。

STEP3 道案内文の評価課題

道順を知らない高校生199名を対象に、案内文の評価課題を実施。
同様に、大学生21名に課題を実施した。

[評価観点(6項目 × 7件法)]

- ①わかりやすさ
- ②読み手への配慮
- ③説明のていねいさ
- ④説明のシンプルさ
- ⑤文章の好感度
- ⑥目的達成(到着)の自信

結果と考察

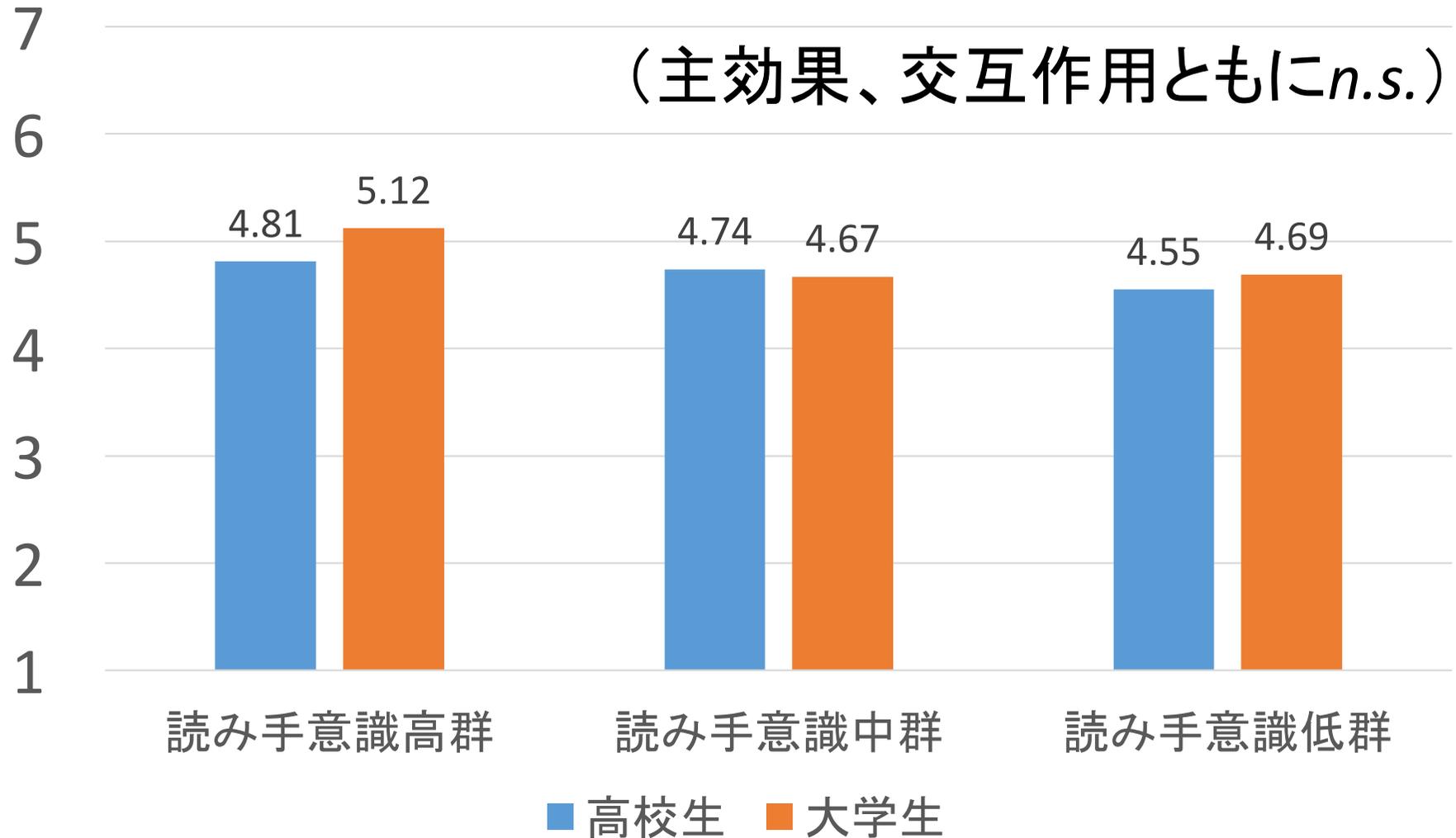
【比較の観点】

- ・読み手意識のレベル(高・中・低)で、どのように説明文の評価が異なる？

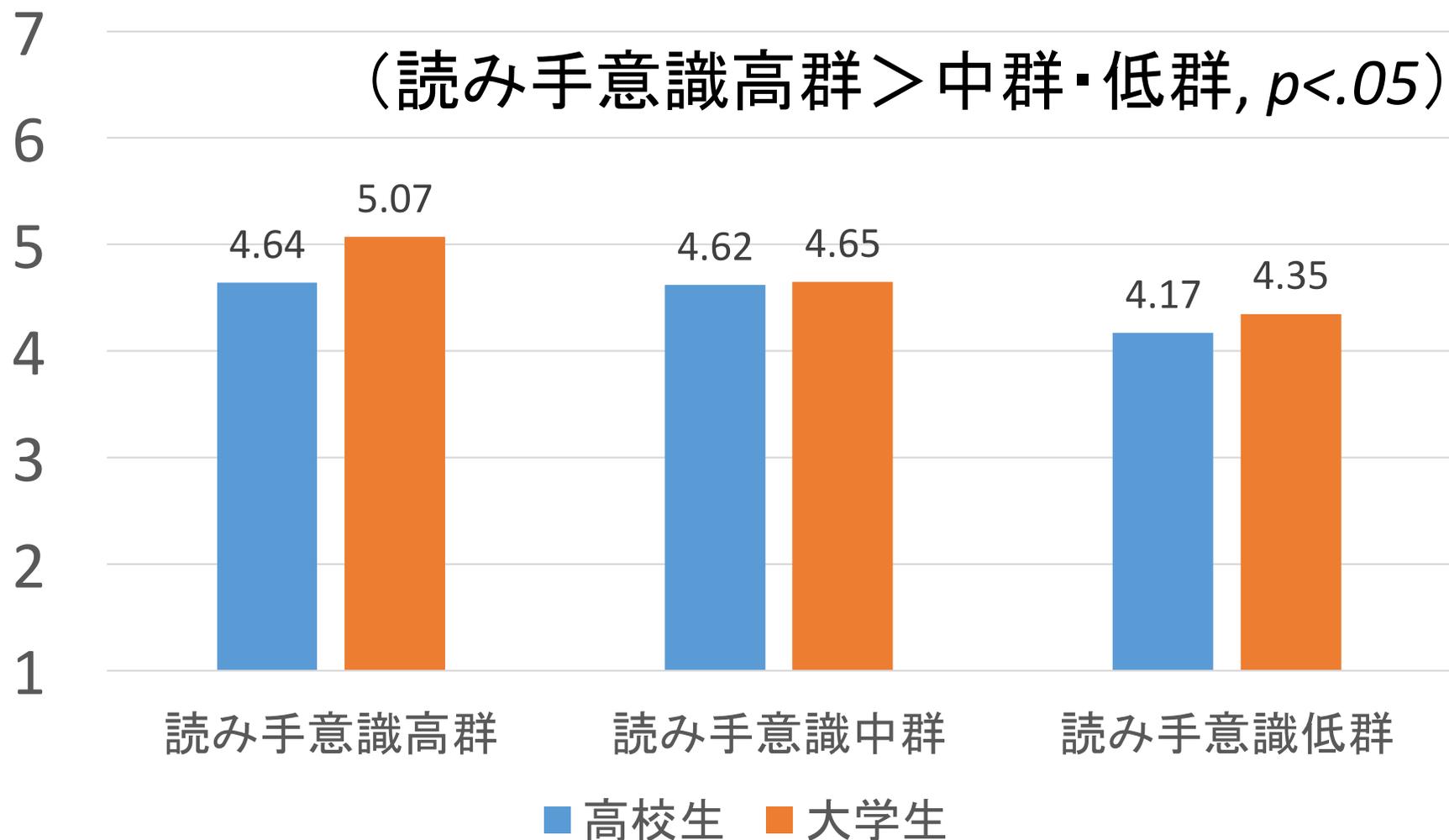
- ・既有知識量によって、説明文の評価にどのような差があるのか？

→ 二要因分散分析による比較

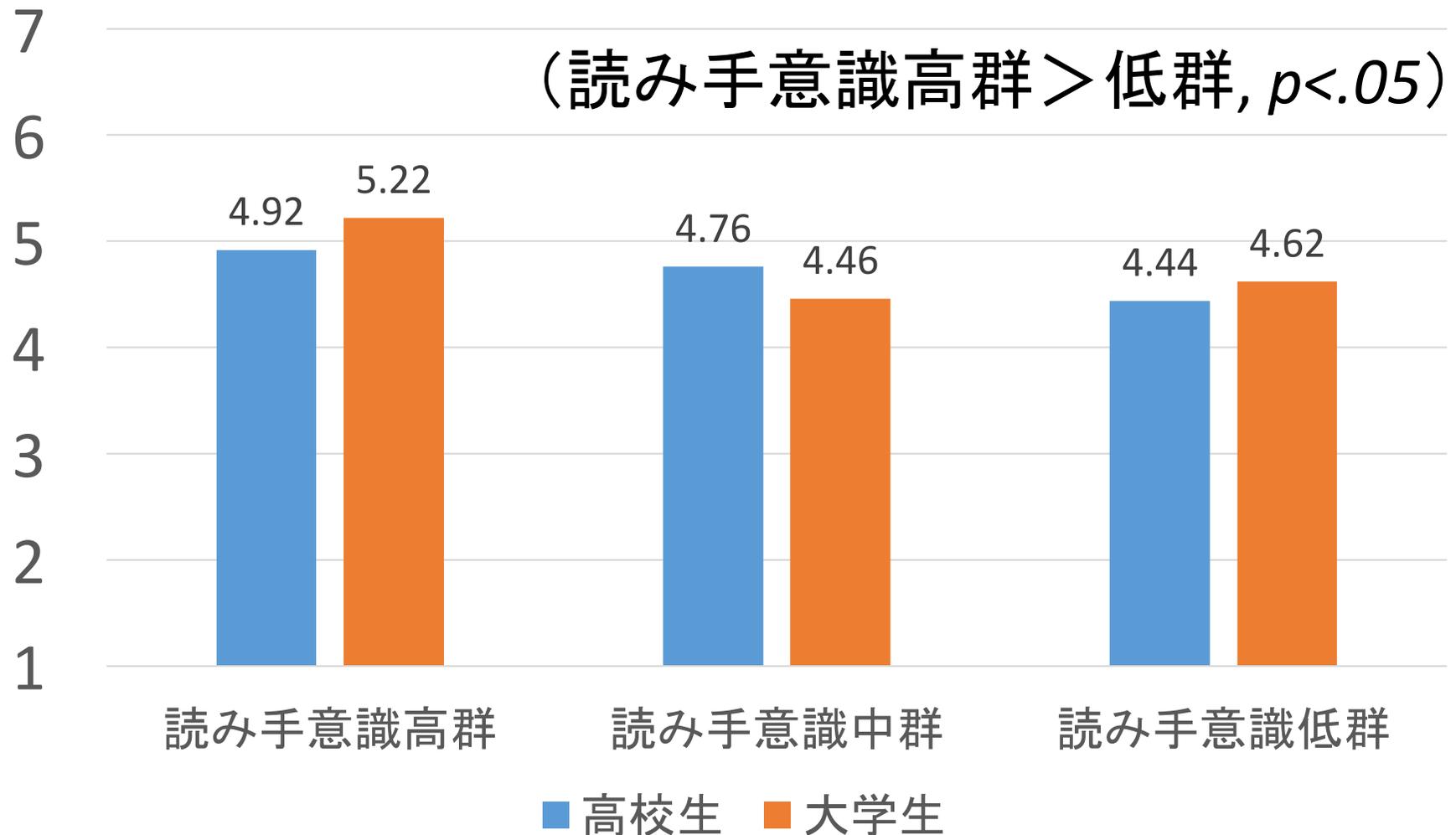
①わかりやすさ



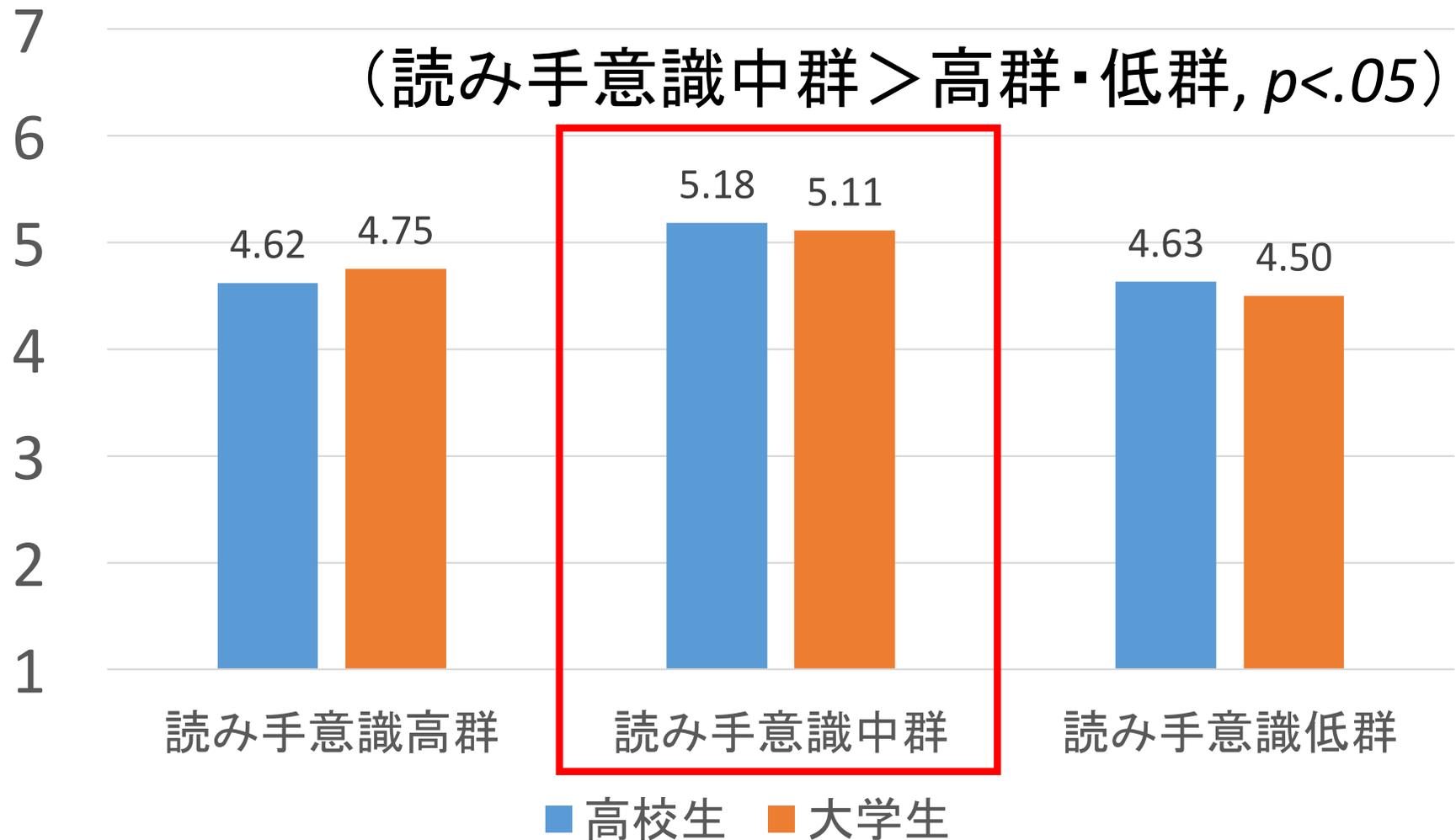
②読み手への配慮



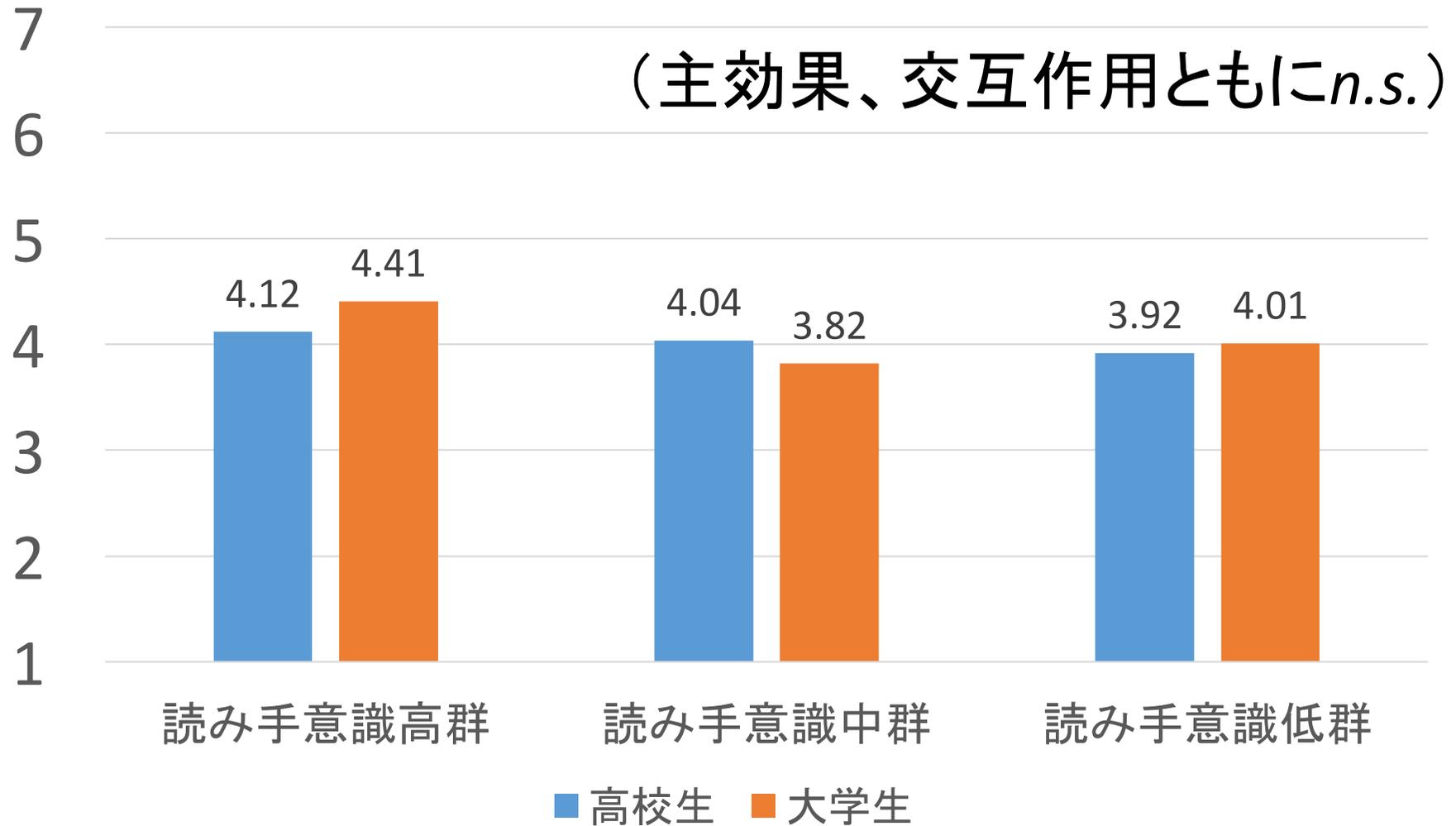
③説明のていねいさ



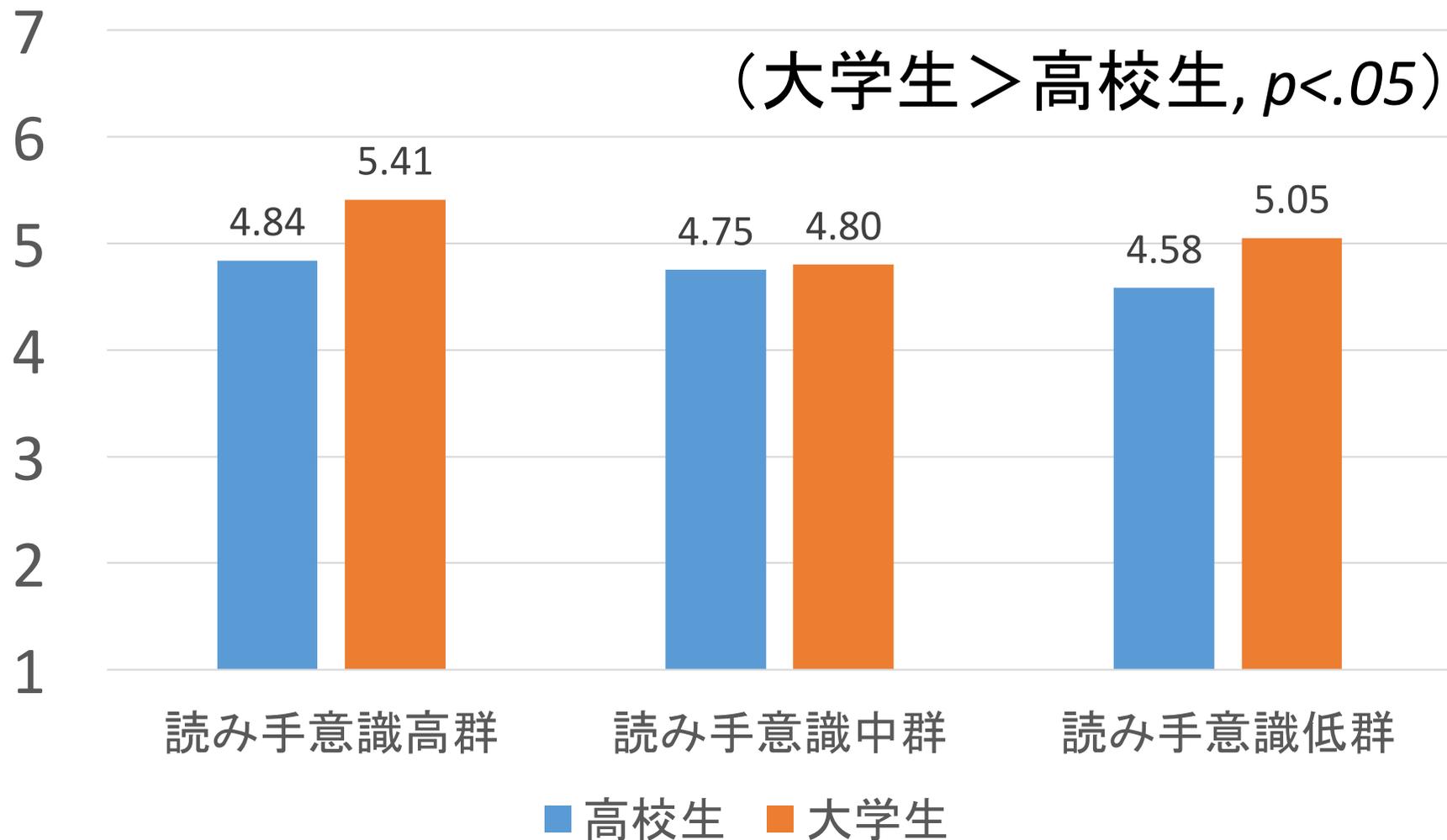
④説明のシンプルさ



⑤文章の好感度



⑥ 目的達成(到着)の自信



【読み手意識尺度が高い人の特徴】

読み手に対する配慮がある。

説明がていねいである。

しかし、わかりやすさは変わらない。

【既有知識量が多い人の特徴】

目的達成に関する自信が高い。

→それ以外の項目に差はなし。

【読み手意識尺度の妥当性】

高低間で「わかりやすさ」に差なし。

→AA尺度の見直し、追試が必要

【AA尺度と説明のシンプルさ】

AA尺度・高群：読み手の理解度を
信頼せず情報追加？（複雑化）

AA尺度・低群：読み手の理解度を
考慮せずに説明分量の増加？

本研究の結論

- ・読み手意識尺度の高い人の説明が、わかりやすいとは限らない結果に。

→尺度の問題？ 課題の問題？ 要追試

- ・既有知識の多少は、説明文の評価にさほど影響を及ぼしていない。

- ・読み手意識が中程度るとき、もっとも説明がシンプルである。